

【湘南国際村めぐりの森植樹祭】 体験レポート

11月6日(日)【第23回 湘南国際村めぐりの森植樹祭】にサンケイアイの有志10名で参加をしました。

当日は天候に恵まれ、穏やかな日差しの中で作業をすることができました。植樹をしたエリアは、バブル時代の開発のせいで自然が破壊されてしまった場所だそうです。通常、破壊されてしまった森が自然に再生するには200～300年の時間が必要です。しかし、この植樹祭では「混植・密植方式」という方法を取ることで20年～30年で森に生長させることを目指します。

人間の都合により破壊してしまった自然ですが、人の手によって計画的に植樹をしていけば従来の10分の1の時間で森を再生することが出来ます。

前述した「混植・密植方式」という方法は、木の生長を促して自然界の生存競争の厳しさを利用して、より強い木々が育つように色々な種類の苗木を約30センチの等間隔かつ同じ種類の苗木が隣り同士にならないようランダムに植えてきます。また、植樹をする際に大切なのは土壌の状態だそうです。栄養が失われた土に植樹をしても、苗木の生長は望めません。

今回、植樹をする土の土台は廃棄物。土はもともと廃棄土壌だったそうで、その土を主催者の非営利型一般社団法人 Silva(シルワ)様の方々が、ボランティアで時間をかけて整えてくださっています。

植樹をする前に、人の手でやる最後の水やりとしてカップのついた状態の苗木を水に浸していきます。

トレイごと水に浸すと、カップ内の土から ぶくぶくと気泡があがりはじめました。

気泡があがらなくなってきたら空気が抜けた合図なのでトレイを引き上げ、そのまま水が切れるまで待ちます。





植樹作業ですが.....土を掘るのにもコツが必要です。

苗木が空へ向かって平行になるよう、固まった土にスコップ自体の長さ分(約20センチ程)の穴を掘るのですが、普通に掘ると中々深い穴が掘れません。スコップを垂直に突き刺した状態で、前後左右に土を解し柔らかくしてから穴を掘っていきます。普段土いじりをしないため、ひとつの穴を掘るのにも最初は苦労してしまいましたが、だんだん慣れていくと楽しくなってきました。

穴にカップから外した苗木を入れ、掘った土を穴に戻していくのですが、植え終えても苗木の根が集中している部分を押さ固めてはいけません。気持ち的に土をぐっと押し固めたいのですが、それは苗木の口を塞いでいるのと同じなのだそうです。

等間隔に、同じ種類の苗木を植えない！

苗木の根元は押し固めない！

そして、せつかく植えた苗木を踏まないように気を付ける！

以上のことに注意しながら、植樹作業をしました。



最初は四苦八苦してしまいましたが、気づけばみんな夢中になって穴を掘り、苗木を植えていました。

サンケイアイで約80本の苗木を植えました(全体で1,000本を植えたそうです!)
しかし、苗木を植えて...終了ではありません。

苗木の生長に天敵なのが草だそうです。

土がむき出しのままだと、風に乗って他の草花の種が根付き、あっという間に生長し植えた苗木の高さを優に超えてしまいます。

このままだと、せっかく植樹をした土地が草だらけになってしまうそうです。

草を防ぐため、土がむき出し状態の苗木の根元に藁を敷いていきます。

藁も適当に敷く訳ではなく、斜面に対し横に並べて敷いていきました。

藁を斜面に対して縦方向に敷いてしまうと、雨が降った時に藁に沿って水が斜面を流れていってしまい、土に染み込まないのだそうです。

横に置いて水をせき止めることで苗の生長に必要な水を確保します。

むき出し状態の土を藁で覆うことが出来れば、植樹は終了です。



私たちが植えた苗木も、すべてが生長することはできないかもしれませんが、樹木が根付き生長して森になったら、その森は次の氷河期が来るまで永續するのだそうです。

世界中で地球温暖化・異常気象による影響が年々ひどくなっており、日本にも大きく影響しています。

資源は有限であり、私たちはその資源を消費するのみの生活をしています。消費のみの生活ではなく、そのあとの時代へ資源を持続し残せるようにしていかなければならないと植樹活動を通じながら感じました。

作業前はちゃんと植えられるかドキドキしていましたが、はじめて尽くしの作業も楽しく植樹体験もでき、また自然の大切さを改めて感じた時間でした。みなさんも機会がありましたら、植樹体験はいかがでしょう？

※【湘南国際村めぐりの森植樹祭】は年に2回開催されます。

このレポートを見て、ご興味を持たれた方、次回の参加を希望される方は

主催者：非営利型一般社団法人 Silva（シルワ）のホームページをご確認ください。

<https://www.silva.or.jp/>



【お問い合わせ】

株式会社サンケイアイ【SDGsプロジェクトチーム】

<https://www.sankei-eye.co.jp/contact/>

(当社HPよりアクセスをお願い致します)